



学友会 会報

第22号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

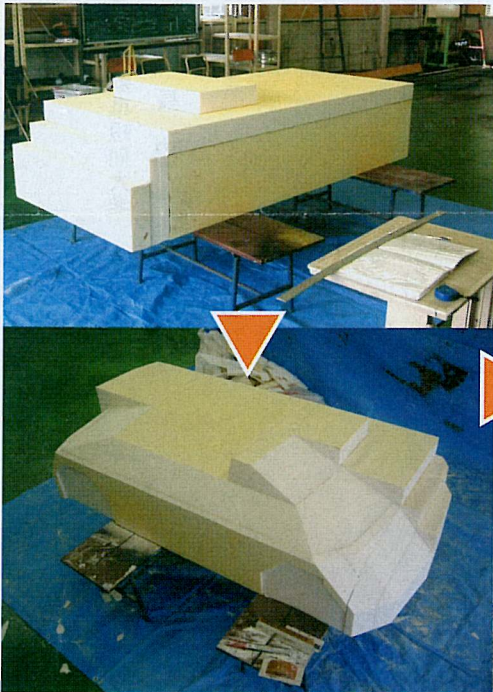
〒505-0077 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301
TEL<0574>26-7121 FAX<0574>26-0840

URL▶<http://www.nakanihon.ac.jp/gakuyu/> E-mail▶gakuyukai@nakanihon.ac.jp

中日本自動車短期大学学友会35周年記念事業

北海道一周 ソーラーカーの旅

2293km 8月10日スタート・8月24日ゴール



現在、車輛製作中!

会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学 学友会会長 丹地章夫



本年も会報発刊の時期となりました。会員の皆様方には、ますますご健勝で、ご活躍のこと、お慶び申し上げます。

平成十四年度の事業計画も順調に実施されており、ここにご報告申し上げます。

十八歳人口の減少が叫ばれて久しく、その波は我々の母校中日本自動車短大にも、確実に押し寄せております。

しかしながら、会員の皆様方のご協力により、本年度も、定員を上回る新入生を迎えることができました。これもひとえに各方面の皆様方の日頃のご活躍のたまものと感謝申し上げます。

三十五年という長い時をかけ、皆様方が培ってこられた、それぞれの職場での働き、それらが、新入生募集においても、在校生の就職活動の面でも、有形無形の力となつて母校を支えています。

継続は力なり、歴史や伝統は今も受け継がれ、そして脈々と生き続けています。

今後とも、母校発展のため尚一層のお力添えを、よろしくお願いいたします。

さて、母校では、十五年八月に学友会主催によるソーラーカーによる北海道走行が計画されており、そのための準備が、着々と進められています。

このイベントが成功を納め、多少なりとも中日本自動車短大のPRに貢献できればと期待しております。次の機会には、皆様方により報告ができるものと思っております。

尚、十五年度の総会は金沢を予定しております。お近くにお住まいの皆様、一人でも多くの方のご出席をお願いいたします。なかなかないチャンスですので、この機会を利用して大いに親交を深めてください。

また、新支部設立についても、どうぞ皆様のお力をお貸しください。学友会も皆様方の援助をすべく全力で当たりたいと考えております。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり多大なご協力、ご支援を賜りました大学関係者並びにOB諸兄、特に学内在籍のOB諸兄に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。





ご挨拶

中日本自動車短期大学

学 長 脇 俊 隆

校友会会員の皆様、お変わりございませんか。毎日お元気で活躍のことお慶び申し上げます。さて、皆様に本学の近況を少しご報告申し上げます。

(一) 好調な滑り出し

本学は今年三月の二級整備士試験で過去最高の合格率九十七・四％を達成しました。また、四月の入学式には、自動車工業科生六二五名、専攻科生四八名の新入生を迎え入れ、大変よい状況で出発することができました。

(二) 短期交換留学

昨年四月には、イタリア国立フエラーリ工業専門学校と本学との間で学生の短期交換留学協定が結ばれました。それを受け、今年二月下旬から三月下旬にかけて四人の本学学生がフエラーリ工場、傘下の整備工場及びフエラーリ工業専門学校に短期留学をして、数多くの得難い経験をさせていただきました。また、今年六月には、フエラーリ工業専門学校生を迎え入れる予定でしたが、SARSの影響で中止となりました。

(三) 一級自動車整備士養成課程準備

本学は、この分野の雄になるべく教育努力として、本年度(平成

十六年度)に一級小型自動車整備士養成課程の開設を目指して準備をしております。この課程は、ご存知のように昨年の一級小型自動車整備士試験の実施に伴い、この分野の教育機関で、にわかには脚光を浴びてきたものです。この資格は、本学の特徴を活かすものとして、大変有効と思われるので本科の二級教育と専攻科の一級及び車体整備士教育を連携させて教育機能を拡大できれば社会に大きな存在を示すことができるものと信じています。

(四) 地域社会に根づく大学創り

地域社会に根づく短期大学としての役割(学習センター機能)を果たすために、様々な企画を検討しております。これは、途に着いたばかりですので、今しばらくお待ちください。

以上のことが着実に定着し成長すれば、本学の社会的評価が高まるのではないかと密かに期待しているところです。

しかし、これらを成功させるには、本学教職員の努力とそれを支えていただいている校友会会員の皆様のお力が必要になります。どうか、今までに増して、ご助力のほどよろしくお願いいたします。

校友会の皆様、日頃は多大なご支援をいただき、有り難く厚くお礼申し上げます。



入学生数625名

中日本自動車短期大学

事務局長 岡 田 俊 治

今年度の入学生は、六二五名となり、ここ三年間では、最高の入学生数となりました。毎年校友会の皆様にお願ひしております同窓生推薦入学試験には四六名もの応募がありました。十八歳人口が益々減少する中で、入学定員六〇〇名を上回ることができたのも、こうした皆様のお力添えのおかげであり、教職員一同大変感謝いたしております。今後につきましても絶大なご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

学内におきましては、中国協定校教員の研修生受け入れ、ヨーロッパ研修旅行、イタリア国立フエラーリ工業専門学校への本学生の短期留学など国際交流が益々活発に行われています。

また、二〇〇四年度に一級自動車整備士養成課程を開設するため、現在その準備を進めております。これらが整えば、自動車工業科では二級自動車整備士、専攻科自動車工学専攻では一級自動車整備士、車体整備専攻では自動車車体整備士の資格取得を目指すというようにそれぞれ目標が明確にな

り、より充実した自動車整備士養成の教育機関として発展することを目指しております。母校の近くに来られた折には、是非お立ち寄りくださいますようお願い申し上げます。

最後に、校友会の皆様の方々の活躍とご繁栄を祈念申し上げます。

同窓生推薦入学試験の実施について

「同窓生推薦入学試験」は、同窓生の推薦があれば、高等学校長の推薦書は必要ありません。また、選抜方法は「面接」のみになります。

また、中日本自動車短期大学卒業生のご子息・ご息女を推薦された場合は、入学金20万円を全額免除、卒業生または在学生の紹介による推薦の場合は入学金の半額(10万円)が免除になります。

皆さんのご子息・ご息女、兄弟姉妹、友人・知人の方々の中で、本学に入学を希望される方がいらっしゃれば、ぜひこの入試制度をご活用下さい。

くわしくは、連絡綴りをご覧ください。

新任教員



石原 建嗣さん

今から三十六年前に本学が開設され、その第一回生として入学し、自動車のイコハを学びました。

卒業後は愛知県の日産自動車の関係会社で、サービ部門が一番長く、サービ以外に営業、保険の仕事もしてきました。日産以外にも輸入車を扱う会社にも二年ほど勤務したことがあります。自動車に関係する仕事はほとんど経験してきました。

本年二月より妙な縁によりまして本学で教鞭を執ることとなり、その巡り合わせに少なからず感謝しております。

私にとって人生最後の勤めとして、また仕事の集大成として、今日まで得てきた知識、経験を少しでも後輩たちに残せたら幸甚であり、最後の花道を飾れるのではないかと考えておりますし、またそうしなくてはいけないと考えます。

「日中協同ソーラーカーシルクロード横断」が本になりました。
太陽と大地の詩
人間社 定価1600円(税別)



鈴木泰成さん

学友会の皆様、私は今年度より本学で教務技術職員として実習を担当させていただくこととなりました。

平成六年に本学を卒業し、トヨタの力コラー店に就職して以来九年間エンジンニアとして整備の仕事をしてきました。

今回本学に転職した理由の一つには、以前から私の希望であった

学生教育の場に就けるといふことがあり応募したところ採用していただきました。実際に仕事が始まり、学生と接して一段とやる気が出てきました。

いざ教育となると今までしてきた仕事とは全く異なっているので少々戸惑ってありますが、それにも早く慣れ自信を持つて学生と接していきたいと思

います。そして教育者という立場になったので今までの気持ちを持ち替えて、今一度引き締め直して

学生教育に励んでいく決意をした次第であります。また、今後は学生に自分の現場での経験や体験を少しでも伝えられればと思いま

す。最後に、学友会の皆様の益々のご活躍とご繁栄を祈念申し上げます。

OB近況



自動車工業科
第三十五期生
宇佐美貴史さん

NACを卒業し、社会人となり一ヶ月が経ちました。

私は今、ガソリンエンジンの適合試験業務というものを行っています。簡単にいうとエンジンの開発に携わる仕事で、主にエンジン単体を動かし性能をとったりしています。

あごがれの自動車の開発部署に就いたわけですが、何も不満はなく、期待通りの素晴らしい日々を送っています。体を動かしてエンジンを分解したりすることもあれば、コンピュータの前に座り必死に頭を使うこともあります。

実際に現場での業務では戸惑つことも多くありますが、NACで学んだことは大いに役立っています。あの授業でやっていたことだ、と毎日実感しているところです。

これからは、今まで勉強してきたことを土台に、意欲を持ち続け、知識を増やしていきたいと思いま

す。自動車業界は、日々勉強だ!!

在学生より



2年生
柳橋航太さん

この中日本自動車短大での学校生活は、長いようで短い二年間。やらなければならぬことが沢山積み込まれているが、そのほとんどをやりきれない状態だろう。

それでも、国家試験合格というものを目標として、本学に入学し、2級合格というものを目指している者としては、この二年間を大切に

に価値のある二年間としていきたい。この二年間は自分の人生の中で、とても大きい存在の二年間になるだろう。2級合格を目指し、

難しい問題に挑み、苦しい生活をすることもあるだろうが、全国から同じ2級合格という目標を持つた友達。2級合格のために全力を

尽くす、学校の先生方。二年間と見るとすごく短い二年間だろうが、中日本自動車短期大学の二年間は、はつきりとした、目標のある

それでいて自由もあるが、苦しい二年間。この二年は自分で選んだ二年間。自分のためにこの二年間をこの中日本自動車短期大学

で無駄にこの二年間を過ごすのではなく有意義にかつ精一杯この二年間を2級合格のために努力していきたい。

認定試験の合格率

技術研修課

三月二十三日に実施された二級整備士認定試験の結果を報告します。

今年は第三十五期卒業生が受験し、二級ガソリン97・2%、二級ジーゼルは70・2%となりました。

二級ガソリンの合格率は、目標の90%を達成したばかりでなく、本学始まって以来最高の結果になりました。

四年連続して88%を超えており、本学教職員一丸となつての取り組みが、ようやく実を結んできたのではないかと思います。

しかしながら、二級ジーゼルの合格率は70・2%となり昨年を下回っていることを考えれば、手放して喜ぶことはできず尚一層の努力が必要と感じています。

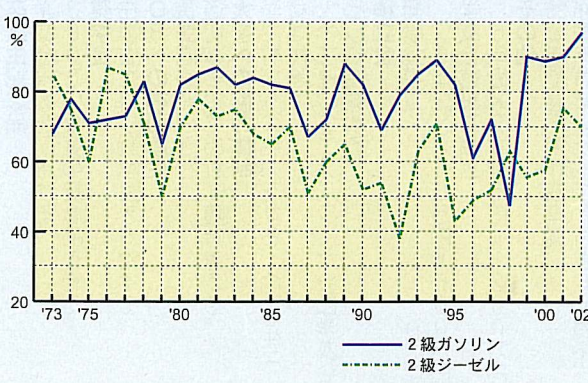
来年度も90%以上、いや、100%の合格率を目指して全力で取り組んでいきたいと思えます。

最後に、学友会の皆様のますますのご活躍とご発展を祈念いたします。

編集スタッフより

学友会会報二十二号発刊にあたり、ご協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げます。

【認定試験合格率の推移】



学友会では、会員の皆様と交流を図るため、ホームページを開設しています。アクセスをお待ちしています。また、メールアドレスも取得していますので、ご利用ください。
URL
<http://www.nakanhon.ac.jp/gakuyu/>
E-mail gakuyukai@nakanhon.ac.jp

計報

今年1月から入院されていた中島靖範先生が、5月10日に永眠されました。謹んで哀悼の意を表します。



ご挨拶

中日本自動車短期大学

学 長 脇 俊 隆

学友会会員の皆様、お変わりございませんか。毎日お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。さて、皆様に本学の近況を少しご報告申し上げます。

(一) 好調な滑り出し

本学は今年三月の二級整備士試験で過去最高の合格率九十七・四％を達成しました。また、四月の入学式には、自動車工業科生六二五名、専攻科生四八名の新入生を迎え入れ、大変よい状況で出発することができました。

(二) 短期交換留学

昨年四月には、イタリア国立フエラーリ工業専門学校と本学との間で学生の短期交換留学協定が結ばれました。それを受け、今年二月下旬から三月下旬にかけて四人の本学学生がフエラーリ工場、傘下の整備工場及びフエラーリ工業専門学校に短期留学をして、数多くの得難い経験をさせていただきました。また、今年六月には、フエラーリ工業専門学校生を迎え入れる予定でしたが、SARSの影響で中止となりました。

(三) 一級自動車整備士養成課程準備

本学は、この分野の雄になるべく教育努力として、本年度(平成



入学生数625名

中日本自動車短期大学

事務局長 岡 田 俊 治

学友会の皆様、日頃は多大なご支援をいただき、有り難く厚くお礼申し上げます。

今年度の入学生は、六二五名となり、ここ三年間では、最高の入学生数となりました。毎年学友会の皆様にお願ひしております同窓生推薦入学試験には四六名もの応募がありました。十八歳人口が益々減少する中で、入学定員六〇〇名を上回ることであったのもこつした皆様のお力添えのおかげであり、教職員一同大変感謝いたしております。今後につきましても絶大なご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学内におきましては、中国協定校教員の研修生受け入れ、ヨーロッパ研修旅行、イタリア国立フエラーリ工業専門学校への本学生の短期留学など国際交流が益々活発に行われています。

また、二〇〇四年度に一級自動車整備士養成課程を開設するため、現在その準備を進めております。これらが整えば、自動車工業科では二級自動車整備士、専攻科自動車工学専攻では一級自動車整備士、車体整備専攻では自動車車体整備士の資格取得を目指すというふうにそれぞれ目標が明確にな

り、より充実した自動車整備士養成の教育機関として発展することを目指しております。母校の近くに来られた折には、是非お立ち寄りくださいますようお願い申し上げます。

最後に、学友会の皆様の益々のご活躍とご繁栄を祈念申し上げます。

同窓生推薦入学試験の実施について

「同窓生推薦入学試験」は、同窓生の推薦があれば、高等学校長の推薦書は必要ありません。また、選抜方法は「面接」のみになります。また、中日本自動車短期大学卒業生のご子息・ご息女を推薦された場合は、入学金20万円を全額免除、卒業生または在学生の紹介による推薦の場合は入学金の半額(10万円)が免除になります。皆さんのご子息・ご息女、兄弟姉妹、友人・知人の方々の中で、本学に入学を希望される方がいらっしゃれば、ぜひこの入試制度をご活用下さい。くわしくは、連絡綴りをご覧ください。

新任教員



石原 建嗣さん

「日中協同ソーラーカーシルクロード横断」が本になりました。太陽と大地の詩 人間社 定価1600円(税別)

今から三十六年前に本学が開校され、その第一回生として入学し、自動車のイロハを学びました。卒業後は愛知県の日産自動車の関係会社で、サービ部門が一番長く、サービ以外に営業、保険の仕事もしてきました。日産以外にも輸入車を扱う会社にも二年ほど勤務したことがあります。自動車に関係する仕事はほとんど経験してきました。本年二月より妙な縁によりまして本学で教鞭を執ることとなり、その巡り合わせに少なからず感謝しております。私にとって人生最後の勤めとして、また仕事の集大成として、今日までで得てきた知識、経験を少しでも後輩たちに残せたら幸せであり、最後の花道を飾れるのではないかと考えております。またそつしなくてはいけないと考えます。